

[30] フィリピの信徒への手紙 4章1節
「主にあってしっかりと立ちなさい」

《1》

新共同訳では「主によって」しっかりと立ちなさい、とありますが、今朝の説教題では敢えて「主にあって」しっかりと立ちなさい、としました。このほうが原文に近いですし、また当然ながら含蓄も深いように思われるからです。

これについては、また後で述べます。

今日のこの箇所は、「だから」という言葉で始まっています。今まで述べてきたことを受けて、それに注意を喚起しています。

それと共に、これからどうすべきか、ということでも大切な指示を与えている、ということになります。

ですから、「だから」は、前に述べたことを受けて、このあと語ることに橋渡しをしていることになりますね。

ここでパウロが言いたい何よりも大切なこと・重要なことは、あなたがたはしっかりと立つように、ということでしょう。それは間違いありません。

いわばゴルフで、バーディーでもとった時に、ボールがすんとゴールの穴に落ちるように、「だから」の言葉が、ここで、しっかりと立つように、ということへと、すんと集約されている、と言ってよいでしょう。

では、何を受けて、「だから」へと繋がっているのでしょうか。

大きく言えば、前で言われていることのすべてです。それでもいいのですが、それではあまりにもとりとめが無いとすれば、直前で言われていることです。

目標を目指して、ひたすらに走れ！ 神さまが賞を与えてくださる。そうでなくてもあなたがたの本国は天にある。そこから救い主・主イエス・キリストが来られる。

そして、私たちの卑しい体を栄光ある体へと変えてくださる。——これは確実なことなのだ。

私たちはその時を待つ。それは漠然と、呆然とした状態で、

ぼんやりと、何もすることなく待つのではない。ひたすらに目標を目指して、信仰に励みつつ、待つのです。そのようにして生きる。生きなければならない。——「だから」、そのために、しっかりと立ちなさい！

そして、もう一つの「だから」の意味です。これは4章で言われることになる、しっかりと立って、パウロが命じ、懇願しているそのことを行うように、ということになります。

この個所の大筋は、こういうことになります。

ただし、この個所の特徴として、どなたでも気がつくでしょうが、フィリピの教会に対するパウロの深い愛が、鏤められています。

「私が愛し、慕っている兄弟たち」、

「私の喜びであり、冠である愛する人たち」。

愛する、慕う、喜び、冠……。ほかの教会に対してはなかなか使わないような言葉を凝縮しています。

このことを、まず見ておきましょう。

《2》

パウロがここで、「愛」という言葉を振りまくのですが、勿論、言うまでもないですが、ほかの教会は愛していない、ということではありません。

ただ、口に出さないだけで、私があなたがたを愛していることは、よくわかっているだろう、という思いなのでしょう。

それはまた、彼らを叱責する時においても、変わることはありません。

彼らはきちんと、パウロの叱責の言葉と、口には出されないパウロの愛の思いを受けとめたことでしょう。

では、ここでパウロは、なぜ「愛」という言葉をもって殊更に、フィリピの教会の人たちに呼びかけるのか？ ——答えは、言うまでもないですね。

フィリピ教会に対するパウロの愛が、あまりにも強く、深いからでしょう。

この強烈なパウロの愛を横目に見ながら、私たちは、ここで、愛ということについて、もう少し根本的な事柄を考えてみましょう。

キリスト者、信仰者であれば、誰でも愛をもって生きている。少なくとも、そのように努めている。

これは言うまでもないでしょう。何と言っても、イエスさまが大切なこととして挙げられたのが、神さまと隣人とを愛することでした。

愛は信仰の要。愛をもって生きているかどうか、これが本当の信仰者であるかどうかの目印、旗印となるでしょう。

今は「愛とは何か」ということに広く触れることはしません。

ただひとつ、述べておきたいこととして——愛は好き嫌いとは違う、ということです。

誰でも自分の子どもを愛するでしょう。聖書の中にも、悪人さえ自分の子どもは愛すると、御言葉にありますね。

それは、自分の子どもが好きだからでしょう。好きだから愛する。しかしその段階に留まっていたら、本当の愛とは言えない。

人間的に見たら、とても好きにはなれない。それどころか、怒りや憎しみさえ覚える相手である。それでも愛する。

本当の愛とは、そういうことでしょう。

言わば、愛せないけれども愛する。或いは、愛せないからこそ愛する。少し逆説的ですが、イエスさまの教えには、似たようなことがほかにもあると思います。

例えば「赦し」。主の祈りの中でも祈られていることのひとつです。

では、皆さん、どういう時、どのようにして、赦すのですか。

自分で納得して、——仕方がない、わかった。赦すのは苦しいけれど、赦すことにしよう。とにかく、そうするのがよい、そうすることに決めた——こういうことでしょうか？

でも、これだと、いろいろあるにせよ、とにかく人間的な思

いとして、既に「赦し」は自分の中で実現されていますね。問題は完結しています。

そうであれば。イエスさまは、赦しなさいとは、言われませんかよね。それでは、屋根の上にまた、新たな屋根を取り付けようとするようなことで、意味がありません。

そうではなく、人間的には赦せない。それでも赦す。赦すことが主の御旨だからです。

赦せないけれども赦す。そこに赦しの真髄があるでしょう。

では、愛をもって赦す人はどうなるでしょう？ その人には、主の愛と報いと恵みとが、考えられぬほどの輝きをもって降り注がれることになります。

主はその人を赦してくださると共に、喜びをもって恵みに生かしてくださる。主はそのような人を放っておかれることはありません。

ほかにも例があります。

「忍耐」。人間的に忍耐できないからこそ、忍耐せよと言われるんですね。

「寛容」もそうでしょう。人間として寛容になれないからこそ、信仰者としての寛容が求められる。

これ以上、例を挙げるまでもないでしょう。

そして、どの場合にも欠かせないこと。——それは、御霊の助けと導きを、祈り求めつつ、愛すること、赦すこと、忍耐すること、寛容であることです。

これがなければ、心配で、不安で、恐れがあって、仕方がないでしょう。ですから、御霊に委ねる！ そうすれば大丈夫。

御霊に委ねて、すべての人に対して、心からの愛の人として生きる。これが主の御旨です。

なお、もうひとつのこととして、今朝のこの箇所を抑えておくべきことがあります。

それは、パウロはフィリピ教会の人たち全員に対して、愛す

る者たち、慕う者たち、冠である者たち、と呼びかけているのですから、それは教会全体が、そのような者たちの集まりである。

だから、教会員皆が、互いに、この愛のうちに生きるように。どのようなことがあろうとも、主イエス・キリストの愛をもって生かされている者として、平和と一致のうちに生きるように！

この願いが込められているでしょう。

《3》

さて、主にあってしっかりと立つことです。

「主によって」というのは、「主にあって」ということに含まれる一部分ということになるでしょう。

主にあって、というのは「主の中で」ということです。In the Lord.主イエス・キリストの中に、完全に包み込まれてしまう。

そうであれば、そこにあるのは、主の守りであり、助け、励まし、慰め、力、希望、喜び、平和、…数え上げれば切りのない、恵みと祝福です。

主の中にあるならば、何も恐れることはない。

こうして、主にあって、しっかりと立つのです。

ところで、この「しっかりと立つ」という言葉は、もともと軍隊で使われる言葉であった、といわれます。

兵士たちはそれぞれ持ち場を持っています。そこを死守しなければならない。強い大軍の敵が攻めてきたからといって、持ち場を捨て、さっさと逃げるようでは困るのです。

そうではなく、持ち場をいつまでも、しっかりと固く保つ。逃げ出さない。——これが、しっかりと立つ、です。

パウロは、こうして、信仰のことを語っているのは、明らかですね。

どのようなことがあろうとも、いつまでも、信仰に堅く踏みとどまれ！

この世に生きる限り、苦難があるでしょう。また誘惑もある

かもしれない。

時には、なんで自分は信仰を持ったり、教会に通ったりしているのだろう、などと思ったりさえしてしまうかもしれない。

しかし、たとえ、どのようなことがあろうとも、信仰から離れてはならない。

持ち場から逃げ出してはならない。——あなたがたの本国は天にある。

そして、ヨハネ福音書が告げるように、その天国に私たちの席、住まいは用意されているのです。

だから、揺らぐことなく、しっかりと立ちましょう。

それは、主イエス・キリストの中で立つこと。だから、確実です。

主イエス・キリストと御霊とが、伴って、私たちを支え、助け、守り、導いてくださる。

主と御霊とに、私たち心から委ねるならば、そのようにして、しっかりと立つことができるのです。——

私たち、いつまでも主の愛に留まりましょう！

主イエス・キリストと固く結びついて、真実の信仰に生きるのです！

主イエス・キリストの中で、主と共にあって、主が下さる喜びと希望を感謝しましょう！

2022年10月9日 朝拝

恵み深い天の父なる神さま、尊い御名を崇めます。

どうか、主イエス・キリストの深い愛によって生かされている私たちです。この愛に、いつまでも堅く立ち、本当の信仰の喜びと慰めに、生きる者とされますように。

また、人々との間で、特に教会員同士が互いへの愛をもって、教会の愛と一致と平和を、建て上げていくことができますように。

御手に委ねて、主イエス・キリストの御名によって祈ります。